
櫨の木と花

坂田古一

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

櫛の木と花

【Nコード】

N2278H

【作者名】

坂田古一

【あらすじ】

一本の櫛の木を通し過去と現在の事件が交錯していく中で、人と自然の関係を問う物語

ブローグ

その大きな櫨の木は昔からこの町にある。

私の曾祖父の曾祖父のそのまた曾祖父が生まれた時から、まだ人がこの土地に住む前から、大きな幹は大地に根をはり、季節とともに色づく葉は、力強く、美しかった。不思議なことに、この木の周りには決して花が咲くことがなかった。

この木の下で逢瀬を重ね、契った男女があつた。女の産んだ児は不具であつた。ある日、夫が隣村へ用足し出かけ留守にする日があつた。日が暮れるころ、女と不具の児しかない家から、獣のような叫び声が聞こえた。

隣の家のものが耳を済ますと、どうも様子がおかしい。

女の鳴咽の混じつた声と、得の知れぬ笑い声が聞こえ、激しい着ずれの音が聞こえた。隣人は母を無くしたばかりの若い男であつた。そろりと女の家の板戸の前までいった。とたん、床に何かを打ち付ける音やら椀が割れる音がした。鶏を絞め殺したような甲高い叫び声が板戸を震わせた。男が板戸を開けると、女が幼児に馬乗りになり、両手で幼児の細首を絞めている。

首を絞められた幼児はケタケタと笑っている。男が呆氣にとられている間に女は囲炉裏に突つ伏し絶命をした。絞められたままの首はとうに折れていたが幼児の喉奥からケタケタと響く笑い声が止まぬ。男は尻餅を着いたまま半刻もその笑い声を聞いた。明くる日に、櫨の木の下で女の旦那が死んでいるのを村の者が見つけた。男の首から下はすっぽりと地面に埋まっており、掘り起こしてみると身体中に櫨の根が絡まり尻から内蔵にまで及んでいたものだから村の者はみな櫨の木の仕業と考えた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2278h/>

樫の木と花

2010年10月8日22時12分発行